

勝山市内の主な野生鳥獣



写真：福井県自然保護センター

イノシシ

水稻を踏み荒らしたり、畑を掘り起こしをするなど農地に侵入すると多大な農業被害が発生

特性

1度に8頭程度の子を産み、他の鳥獣より増加するスピードが早い

対策

電気柵やワイヤーメッシュ柵などの侵入防止柵で山と集落・農地を区分けする



写真：福井県自然保護センター

ニホンジカ

市内では、集落へ出てくることは少ないが、県内では生息数が増加傾向

特性

植物性のものならほぼなんでも食べる。生息密度の高いところでは、山の草地を食べつくすこともある

対策

集落をえさ場と認識させないためにも、農地の周りの草刈りをする



写真：福井県自然保護センター

サル

市内でも農作物被害が増加傾向。発信機を付けた行動調査では、勝山を往来する群れが3つあることが判明

特性

群れを作り、山際を移動して生活する。エサを求めて集落に出没することも

対策

・収穫しない柿の実や畑に捨てた野菜クズなどはしっかり処分する
・花火などで追い払う



熊の目撃情報は
農林課まで ☎88-8121

写真：福井県自然保護センター

ツキノワグマ

山の木の実（ドングリ類）が不作の年の秋は、エサを求め、集落に大量出没する傾向があり、人身被害の危険が高まる

特性

鼻がよく利き、生ごみや収穫されていない果樹を食べに出没することがある。特に春や秋は活動が盛んになる

対策

・収穫しない柿の実や畑に捨てた野菜クズなどはしっかり処分する
・山に入る時などは、鈴やラジオを身に着ける

鳥獣害担当職員が教える 地域を守るためにできること

野生鳥獣による被害から 住民の生活を守りたい

農作物被害以外にも
生活被害や人身被害が発生

勝山市における野生鳥獣による農作物被害額は、令和3年度は176万円となっており、そのほかにも生活被害や人身被害も発生しています。

鳥獣害の拡大する原因として、気候の変化や人間の森林との関わり方の変化による鳥獣の「生息域の拡大」や隠れやすく餌場になりやすい「耕作放棄地の増加」などがあります。

鳥獣には学習能力があり、おいしいエサが食べられる場所には、何度も姿を現します。一方で、警戒心が強く、危険な場所だと認識するとその場所には来なくなることもあります。

鳥獣害対策は、これだけやれば大丈夫ということはありません。また、行政や猟友会の方々だけが活動しても解決できません。

私たちにできることは何か。今回を機会に今一度考えてみてください。

鳥獣の特性を知って力を合わせて対策を



農林課 鳥獣害対策係
主査 出口 恭裕

効な対策にご協力をお願いいたします。

生息環境管理

収穫できない柿の木伐採や農地周辺の草刈り、山際の樹木を伐採して動物が山から集落に移動しづらくする緩衝帯の整備など

侵入防止対策

農家組合の皆さんを中心に電気柵やワイヤーメッシュ柵の侵入防止柵を設置

有害捕獲

猟友会の会員の方がわなを仕掛けてイノシシやシカを捕獲

鳥獣害対策は、動物が集落に滞在しづらくなる環境をつくる「生息環境管理」、柵を設置して集落へ入れない「侵入防止対策」、出沒した動物を捕まえる「有害獣捕獲」の3つがあります。

鳥獣害を減らすためには、1つの対策だけを集中して行えばよいというものではありません。どれも必要な対策であり、市や猟友会だけでなく、市民の皆さんのご理解とご協力が必要不可欠です。

市では、猟友会などの関係機関と対策連絡会や対策訓練、罾の管理研修などを行っています。市民の皆さんも動物の特性を知り、有